No.16
2018年（平成30年）/8月発行

東京鰐陵
Tokyo Gakuryo

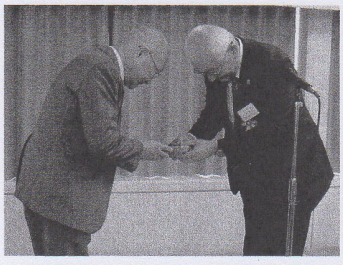
HP●http://www.gakuryou.com/

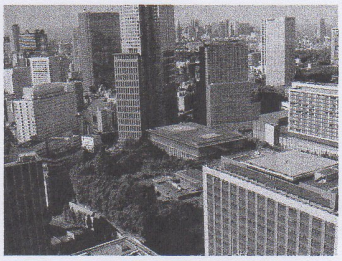
発　行●東京鰐陵会（石巻高等学校同窓会東京支部）
会長　佐藤 悠
発行所●東京都荒川区町屋 7-19-5-312
早川誠方　東京鰐陵会事務所
TEL & FAX (03) 3809-0848
編　集●東京鰐陵編集委員会

振込み口座●郵便振替口座番号 00180-4-350194
加入者名　東京鰐陵会
●銀行口座　三井住友銀行　町屋支店
普通 6950841東京鰐陵会会計早川誠

第26回東京鰐陵会総会開催される

新会長に佐藤悠氏（37回生）が就任。毎年開催になって4年目、前年とほぼ同じ143名の参加者が集まり大盛況の中、無事終了した。





木村貴則会長（左）と新会長・佐藤悠氏（37回生）

東京鰐陵会第26回総会・会長挨拶

会の永続的発展を図るため、色々な試みで〝若手会員〟の増加を

東京鰐陵会会長　**木村貴則**（33回生）

皆さん「こんにちは」。会長の33回生の木村貴則です。本日はご参加頂きまして有難うございます。日頃は会の運営にご指導ご鞭撻を賜りまして有難うございます。この場を借りて御礼申し上げます。

今日の総会には、鰐陵同窓会本部から青木利光会長、中塩一夫事務局長、須田徹事務局次長、顧問の小松校長先生にお出で頂きました。後ほど懇親会の時に改めてご紹介を致しましてご挨拶をいただきます。お蔭様で好天に恵まれまして、143名の参加者を得ました。3時間をお楽しみ下さい。

さて、2011年3月11日の東日本大震災から6年8ヶ月が経過しました。20兆円の復興予算の消化期限は2020年3月末まで残り2年余です。石巻市内は復興住宅が出来上がってきて、北上川に2本の新たな橋を架ける工事が進んでおり、形を成してきております。問題は半島地区の復興の遅れを取り戻して、人口減少をいかに食い止めるかであると言われております。

鰐陵同窓会本部総会が8月13日に行われまして出席して来ました。翌日、半島の復興状況を確認するために、車で女川からコバルトラインを通って鮎川、大原、荻の浜方面を回って来ました。女川は何度か足を運んでいますので、駅前地区の賑わいを確認して一路鮎川に向かいました。鮎川は震災の年の5月に行った時には、魚市場辺り一面が地盤沈下して岸壁が海面すれすれの状態でした。それを嵩上げして新たな魚市場が出来ていましたが、今度は地盤が隆起して小型の漁船の水揚げが出来ない状況となったため、岸壁の舗装を30㎝程削る工事をしておりました。石巻の魚市場辺りも同じ現象が起きているということでした。震災の余波は続いている様です。今年の4月には復興事業が遅れている半島地区に注力するために石巻市役所に半島復興担当部署を30人規模で立ち上げていると亀山市長に聞きました。その成果が早く出ることを期待したいと存じます。

東京鰐陵会総会は、今年26回目の開催で毎年開催と決めてから4回目となります。毎年開催と同時に会報紙『東京鰐陵』も毎年発行として、今回の総会案内状に同封して第15号をお届けしました。

会の活動をつぶさに報告すると共に、同期会の集まりや

（次ページへ続く）

個人の消息も出来るだけお伝えして連携を深めるツールにしたいと思っています。広告収入を当てにしないで、皆さんからの援助金を運営資金にして活動を続ける積りで頑張っております。役員の会議や編集作業も全くのボランティア作業で運営しております。前回は162名の方から409,500円の資金援助を頂きました。有難うございます。お名前を『東京鰐陵』の最後のページに総会参加者と並べて掲載させて貰いました。この方々が頼りです。

今回は本日現在で133名の方から542,000円の寄付を頂きました。この中には、本日の米寿のお祝いにご出席下さいました20回生・安住重一様より20万円を頂きました。又別途石高に百万円の寄付を頂きました。有り難うございます。

会の永続的発展を図るためには、若手の会員が増えてくれることが欠かせません。そのための試みを色々と行っています。総会の案内状を送るには若手会員の住所を知ることが必要ですが、個人情報保護の関係で無断で同窓会名簿から持ってくることは出来ないので、独自に名簿作成を試みています。①石巻高校の卒業式前日に行われる鰐陵同窓会入会式の席で、卒業生全員に『東京鰐陵会（鰐陵同窓会東京支部）入会のお誘い』の案内と会報紙『東京鰐陵』を配付して、東京地区に住所を構えて落ち着いたら東京鰐陵会事務所に住所、氏名を届けてくれる様に案内したり、②今年の本部同窓会総会の主管を務める同期生、今年は63回生を対象にして、総会の後の主管の打上げ会に顔を出して、入会勧誘を行いました。丁度45歳になる時に主管の役目が回って来ますが、この年齢では家を構えて落ち着いてくる時期なのでそろそろ同窓会にも興味を示す頃ではないかと思った次第です。しかし、期待した参加者はゼロでした。この試みは続けますが、確実なのは現在行っている当番幹事回生を設けて、順次若い年代にシフトしていって、そこで把握している同期生の情報を拡大していく方法です。今年の41回生は14名の参加で、全体の10％の参加者です。朝早くからのお手伝いはご苦労様でした。

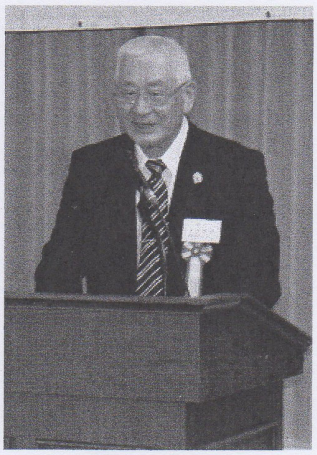
今年の第1部総会の議題としては、2年毎の役員改選があります。総会に諮って承認されるのは、会長、副会長、監事です。現在の役員は2期4年間を経ておりますので、新しい体制に総入れ替えることにしております。新たな役員名簿を提案致しますので、ご了承いただきたくお願い致します。

第2部は昨年に続いて演奏会を行います。「ミニ・コンサート」として、同窓会誌『鰐陵』第55号の特別寄稿で紹介された作曲家和泉耕二氏（38回生）の新作歌曲を、二期会所属のテノール歌手渡邉公威氏（64回生）に歌って貰います。次いで渡邉さん得意のイタリア歌曲などを歌って貰います。

第3部懇親会では、『米寿、喜寿を迎えられた出席会員の紹介と記念品贈呈、代表者の挨拶』がありまして、『歓談タイム』の1時間ではゆっくりと同期生、先輩後輩、部活の仲間と語らって下さい。

石巻白謙かまぼこ店提供の『笹かまぼこ』と会で購入した宮城の銘酒『一ノ蔵』の今年の新酒である「しぼりたて」をテーブルに提供します。味わって頂きたいと存じます。

最後まで、楽しく過ごしたいと思います。本日はご出席有り難うございました。


木村東京鰐陵会会長

創立100周年事業に向けて、会費納入のご協力をお願い

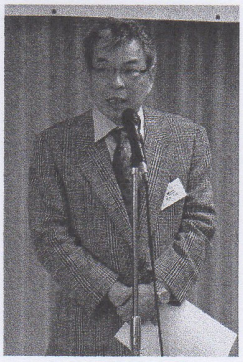
鰐陵同窓会会長　青木利光（43回生）

皆様こんにちは。43回生の青木と申します。本日は大変多くの会員の皆様の参加を得て、この様に盛大に総会が開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、木村会長様を始め、東京鰐陵会の皆様には格段のご支援を頂いておりますことをこの場で御礼申し上げます。

先程、会計報告がありまして、会員のご寄付が頼りである事の報告が有りましたが、本部も同じ状況で大変厳しい状況です。創立100周年事業に向けて、たくさんの同窓生の方々に会費納入のご協力をお願い申し上げます。宜しくお願いいたします。

又、総会には若い出席者が少ない話がありましたが、本部総会でも同じ傾向が見られます。本日の総会の出席者名簿を拝見しますと、最高齢者が19回生、若い人が73回生で、その差が54歳ですが、今年の石巻の総会では、最高齢者が14回生の中塩善次郎先生で若い人は昨年の卒業生の89回生で、その年齢差が75歳でした。今後はますます若い人の参加を増やす様に、他の支部とも協力して努力して参りたいと存じております。

本日の総会で役員の交代があり、木村会長さんが退任されましたが、長い間ご苦労様でした。次期佐藤会長の下でますます発展されますことを祈念致します。本日は誠におめでとうございます。


青木鰐陵同窓会会長

全国高等学校総合文化祭で新聞部等が活躍しました

宮城県石巻高等学校校長　小松敦

小松校長先生

皆様こんにちは。校長の小松でございます。今年就任して2年目になります。東京鰐陵会の皆様には、日頃何かとご支援を賜りまして誠に有難うございます。心から感謝いたしております。

最近の学校の様子を簡単に紹介したいと思います。今年の入学生ですが、男子よりも女子の方が若干多くなりました（男子113名、女子125名）。全体では男子が30名ほど多い状況です（男子374名、女子341名）。年々女子の入学者が多くなる傾向です。

本学の特徴である「文武両道」について述べたいと思います。本日皆様方の手元に資料がございますが、今年は現役で東大文二に合格する者が出ました。その他に難関大学に多数合格する成果を上げ頑張っております。また、今年は全国高等学校総合文化祭が宮城県で開催されました。文芸部系のインターハイと言われている大会ですが、全国から2万人の生徒が来て大会を盛り上げました。この開会式には、秋篠宮殿下がおいでになられました。私は部会長を務めておりまして、宮様にご挨拶しご案内する貴重な体験をすることが出来ました。この大会では、新聞部、自然科学部、書道部等が活躍しました。

運動部では、陸上部、水泳部、ヨット部、ボート部、ウエイトリフティング部が東北大会、全国大会に出場しています。出来れば野球部も甲子園に出て欲しいのですが、もう一歩のところです。

本校は今年で95周年になりまして、5年後の2022年、平成で言いますと平成35年に100周年を迎えます。準備委員会を立ち上げて準備に掛かる予定でおりますが、東京鰐陵会様にもご指導やご鞭撻、ご支援を賜わることになると思いますので、その節は宜しくお願いいたします。

本日は総会にお招きをいただきまして大変ありがとうございました。盛大な総会の開催で大変おめでとうございます。

恒例企画

米寿・喜寿を迎えた参加者に健康を祝福し、記念品を贈呈

米寿を迎えた中学時代の思い出

安住重一（20回生）

米寿の挨拶をされる安住重一様

真珠湾攻撃の日、牡鹿半島大原小学校の六年生だった。

山懐につつまれて海の見える丘の上に立っていた。昭和十七年の春憧れの石巻に合格した。地域の差か田舎の優等生は成績振わず極度のコンプレックスに苦しんだ。

開戦当初は戦況も良く課外活動や諸行事に青春を謳歌した。中学一年の思い出は、剣道の寒稽古納会の紅白戦、二十三人を倒して優勝し賞品にノート三冊貰って嬉しかった。二年の思い出は津田先生の幾何の事、中間と期末試験に連続満点をとった。成績不振の生徒を先生はオーバーに誉めて下さった。これが大転機となり勉強に熱が入りコンプレックスから開放された。

教育の原点なんて案外そんな所にあるのかも知れない。

中学三年生の頃は連合艦隊がミッドウエー海戦に敗れて戦況日々悪化し農家の働き手も召集され人手不足で近郊農家に勤労奉仕に出ることが多くなった。

昭和十九年学徒勤労令が公布され多賀城海軍工廠に動員された。私のクラスは火工部に配属された。二百五十キロ爆弾と零戦の二十ミリ機銃の弾丸と薬きょうを作る部門である。ターレット旋盤を操作して作るが、先端のアールが難しくオシャカが多かった。

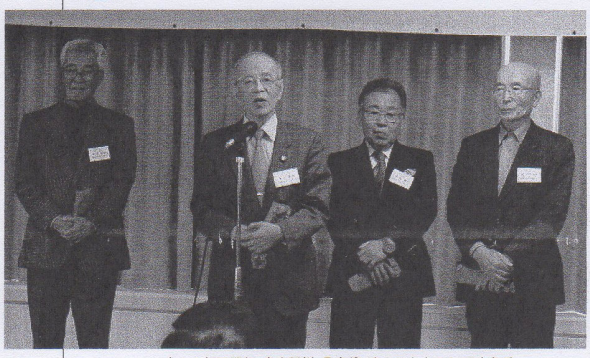
昭和二十年になり米軍機の空襲が多くなり工場の灯火管制が厳重になった。夜勤の時暗く離れたトイレに行くのが怖いので女子学生は集団で工場出口の草むらで用をたしている姿は異様であった。仙台が空襲された頃から、松島高城町にトンネル工場を造るため毎日ハッパをかけて穴掘り作業をした。その頃石巻の自宅に一泊して翌朝帰るために駅まで来た時にアメリカ空母艦載機の空襲を受けた。発射音鋭いので自分が狙われた様で怖くて逃げ回り昼頃にやっと家に着いた思い出がある。

終戦は多賀城の寮があった丘の上で雑音のラジオ放送で知った。戦後学校が再開されたが、私は教室での記憶が無い。水産講習所に合格し四年卒業になった。五年に進学したクラスメート諸兄は、価値観が百八十度転換した終戦直後の中学最後の年をどう体験された事であったろうと思い出される。

（水産講習所を卒業後は、静岡県の遠洋漁業の会社に勤め、漁労長としてインド洋やアフリカ沿岸まで出掛けられた由。機会が有れば紹介して貰いたいと思いました。木村補足）

喜寿を迎えて

奥山興悦（31回生）


左から飯田勝紀、奥山興悦、桑島馨、遠山日出夫の31回生各氏

第26回東京鰐陵会に出席した私たち同期生4名（飯田、遠山、桑島、奥山）は、会長から喜寿の記念品をいただき、会場の皆さんから温かい祝福を受け、感激しました。

私たちは昭和15・16年に生まれ、幼年期に太平洋戦争を経験。戦後の6・3・3制による初めての小学校に入学（昭和22年）し、戦後の貧しい時代に市内の中学校や近郊の町の中学校の生活を経て、石巻高校に入学（昭和31年）。当時、仙台一高や二高に次ぐ宮城県内有数の進学校でもあり、スポーツも盛んでした。

在学中の最大の思い出は、何といっても、3年生のときの校舎の火災です。1回目の火事（昭和33年10月）は、東校舎（旧体育館、3年生の教室、音楽室、物理・化学部の部室・実験室など）焼失という前代未聞の大火災で、被害総額は2千万円（現在の5億円）を超えました。学校近くに住む同級生らは急遽現場へかけつけ、プールに飛び込んで体を濡らしてから火煙の渦巻く理科実験室に突入し、顕微鏡などの器具を運び出したなどのエピソードが残っています。年明けに2回目の火災。内部放火説が囁かれ生徒たちに動揺が走りましたが、学校側の懸命な対策により、受験勉強中だった我々3年生への影響は最小限に食い止められました。この事件は将来の進路決定に影響を与え、私はのちに司法の道を選ぶことになります。

このときに在京の鰐陵OB有志が集って、遠い石巻の母校の窮状を救うため結成されたのが東京鰐陵会なのです。義援金を募り、母校へ物心両面から援助をしてくれました。私たち31回生は、その恩恵を受けた最初の在校生及び卒業生ということになります。こうして、約60年前に東京鰐陵会から恩恵を受けた私たちが、今度は長生きしたとして、喜寿のお祝いをしていただくことに不思議な縁と深い感慨を覚え、まことに感謝にたえません。

石巻高校を卒業したあとの我が国の発展の歴史や世相については、昨年の本誌に30回生の木村長人さんが年代順に分かりやすく述べておられるので、重複を避け、私は専門の司法の分野からみた卒業後の60年間を大まかに振り返ってみたいと思います。

高校を卒業した昭和34年に有名な砂川事件についての最高裁判決があり、翌35年に第一次安保闘争により東大生の樺美智子さんが死去。昭和42年に教科書検定訴訟、朝日訴訟の判決。昭和44年にいわゆる平賀書簡問題が発生。裁判官の不再任問題が論じられました。昭和48年石巻の菊田昇医師による実子斡旋問題が大きく報道（実子特例法が実施されたのは昭和63年）。昭和51年ロッキード事件で田中角栄前首相が逮捕され、昭和55年連続殺人永山則夫に死刑判決。昭和60年に日航ジャンボ機墜落事件。昭和61年男女雇用機会均等法が成立し、女性の社会進出の支えとなります。

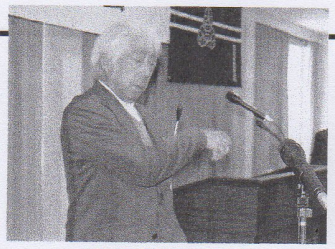
平成の時代に入り、元年にベルリンの壁が崩壊し、冷戦の時代は終わりますが、国内では巨大な事件・事故が続発します。松本サリン事件（平成6年）、地下鉄サリン事件（平成7年）のあと阪神淡路大震災が起こり、平成9年から12年にかけて、世間を驚かせた神戸小学生殺傷事件、和歌山カレー毒物混入事件、雪印乳業食中毒事件などが発生しました。平成13年に米国同時多発テロ事件があり、翌年北朝鮮から拉致被害者5人が帰国。平成17年JR福知山線脱線事故が発生。平成20年リーマンショックがあり、平成22年政権交代により、民主党政権が誕生。翌平成23年東日本大震災と福島第一原発の事故が起こり、戦後最大の深刻な被害を生じました。

津波により犠牲者4千人を出した石巻は最大の被災地として注目され、毎年の3・11には石巻の日和山からの眺望がテレビで流されるのが定番となりました。

私たちは東日本大震災により多くのものを失いましたが、貴重なものも得ました。それは家族の絆、郷土愛、母校へのエールといったものです。私もそれに触発され、平成24年法曹の内部雑誌に「石巻へ想い」という随筆を発表。平成26年日本弁護士連合会による石巻への被災地訪問の際には、全国から集まった弁護士らに被災状況を説明。平成28年には、東京文京区の生涯学習教室で東北の被災地の復興状況を報告し、阿部和夫石巻市芸術文化振興財団理事長の協力を得て、仲間10名で女

年に1度、気楽に集まろう！ふるさとへの想い繋げよう！同期生が同じテーブルで楽しい語らいの場

鰐陵同窓会 東京鰐陵会


和泉耕二氏（38回生）の指揮

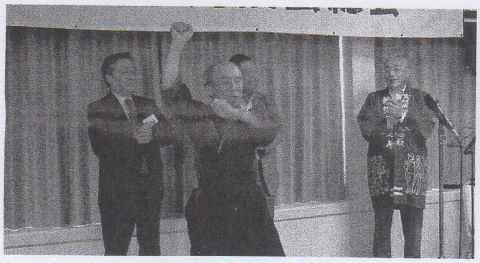
和泉耕二氏（38回生）夫妻と渡邉公威氏（64回生）夫妻

校歌斉唱

熱唱の渡邉公威氏（64回生）

乾杯！　菅原潔氏（19回生）

当番幹事代表挨拶・山形明夫氏（41回生）


応援歌の指揮は鈴木卓郎氏（42回生）

次回当番幹事回生に引き継ぎ

若手挨拶・左から高砂道隆氏（73回生）佐々木克仁氏（60回生）成家新一氏（62回生）佐藤大和氏（73回生）

沼倉寿男当番幹事

川・石巻・松島への「被災地視察観光の旅」を実行し、参加者の感想文を記念文集にまとめました。

近年、日本を取り巻く国際状況は北朝鮮問題をはじめ厳しい状況にあり、国内的にも高齢化、少子化に伴って、さまざまな問題が生じています。司法の分野でも裁判員裁判が導入され、また、いわゆる認知症への対策として成年後見制度が発足しましたが、これらの新制度は必ずしも国民の間に定着したとは言えない状況にあります。

このように、高校卒業後の60年間は大きな事件や事故が続き、さまざまな課題が生じましたが、それらを日本人の知恵と努力のおかげで乗り切ってきました。バブル崩壊で日本特有の年功序列や終身雇用制度はゆらぎ、規制緩和により官庁の権限は弱まる一方、パソコンやスマホの普及によりネットワークが広がって、新たな可能性やビジネスチャンスが到来しています。

平成時代のあとも多くの危難や課題が予想されますが、これまでの経験を踏まえ、若い世代は知恵を出し合って、これらを乗り越えてゆくにちがいないと確信しています。

私たち31回生は地元石巻を中心に毎年同期会を開いて活動しています（現会長は伏見龍一君）が、今回の東京鰐陵会で60年ぶりに顔をそろえた在京の同期生4名は、会の終了後、新橋の店でワインを飲みながら昔話に興じ、再会を約して別れました。

第26回東京鰐陵会総会の当番幹事回生を終えて

厳かにかつ、和気あいあいの東京鰐陵会総会でした

沼倉寿男（41回生）

平成29年11月12日（日）、東京鰐陵会第26回総会が東海大学校友会館・望星の間（霞が関ビル35階）で開催されました。今回も昨年とほぼ同じ来賓・会員合わせて143名が参加し、盛大な総会となりました。

総会は3部構成で、第1部の「総会」は佐藤悠事務局長（37回生）の司会で進められました。堀内文夫副会長（33回生）の開会の辞に続いて、作曲家和泉耕二氏（38回生）の指揮による校歌斉唱、そしてこの1年間の物故者に対し黙祷を捧げました。

この後、木村貴則会長（33回生）の挨拶があり、石巻の近況や会の活動状況、会員獲得の取り組みのほか、第2部の「ミニ・コンサート」などの内容が紹介されました。

続いて、議長に選任された千葉保宗副会長（34回生）の進行で議事に入り、木村会長から「会長、副会長、監事の新役員」の提案、佐藤事務局長から「行事・会務報告」、早川事務局次長（38回生）から「会計報告」、千葉弘二監事（29回生）から「監査報告」がそれぞれ行われました。提案、報告は一括して承認され、第1部は厳かに終了しました。

第2部の「ミニ・コンサート」では、校歌斉唱の指揮をした作曲家の和泉耕二さんと二期会会員でテノール歌手の渡邉公威さん（64回生）の二人が、ピアノ演奏を担当したお二人の奥様の和泉真弓さん黒木直子さんと共に出演し、和泉さんの作品や渡邉さん得意のイタリア歌曲などが披露

30～32回生

25～26回生

33～34回生

27～28回生

36～37回生

29回生

されました。

中でも東日本大震災からの復興を願って和泉さんが以前の作曲を見直された歌曲『石巻・わがふる里』（詩は石田邦彦／35回生）は、渡邉さんの迫力ある歌声とも相俟って参加者を魅了、会場は拍手喝采に包まれていました。

第3部の「懇親会」は、当番幹事回生の沼倉寿男（筆者）の司会、進行で始まりました。

鰐陵会本部の青木利光会長（43回生）と石巻高等学校の小松敦校長の来賓挨拶のあと、若手参加者の紹介が行われました。

続いて「米寿・喜寿」のお祝い。参加した米寿、喜寿の全員が登壇して自己紹介した後、代表の米寿・安住重一さん（20回生）と喜寿・奥村興悦さん（31回生）から挨拶があり、木村会長から記念品が各自に贈呈され、益々の長寿を祈念する拍手がおくられました。

この後は1時間の「歓談タイム」。この総会は他にあまり例を見ない総会と同期会を兼ねて開催するという趣旨に沿って、各回生ごとにテーブルがセットされ、歓談し易い工夫が凝らされており、同期生や先輩・後輩、部活の仲間など和気あいあいの雰囲気の中で語らいの輪が広がりました。各テーブルには、ご提供いただいた『白謙蒲鉾』と、会で購入した宮城の銘酒『一ノ蔵』の新酒が並び、ふる里の味を堪能しながらの歓談に場内は盛り上がりを見せていました。

「歓談タイム」も終盤となり、今回参加した13名の当番幹事41回生を代表して山形明夫氏が挨拶しました。昨年の総会では41回生の参加者がわずか6名だったのが、今回はお互いに色々声かけ合ったことで、参加者は13名に増え、当番幹事の役割を何とか無事に乗り切れることができ安堵しました。次回の総会でも今回以上に同期のメンバーに集まってもらい楽しい時間を過ごしたいと思っています。続いて鈴木卓郎氏（42回生）の指揮による鰐陵歌や応援歌の斉唱が行われました。

最後は来年の当番幹事回生への引継ぎです。次回の当番幹事回生42回生で法被を引き継いだ代表の新田輝夫氏から強い決意表明がありました。監事の木村莞爾氏から中締めの挨拶があり、26回総会は滞りなく終了しました。会場の出口では当番幹事の41回生が整列して参加者をお送りしました。

この当番幹事回生のあり方は他にあまり例を見ない良い慣習と言えます。

総会の手伝いをしながら、声をかけ合って同期の参加者を増やすと言う連鎖が総会参加者を増やし、東京鰐陵会の更なる発展に繋がっていくものと期待しています。

総会に参加して下さいました会員の皆様に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

41 回生

37 回生

42 ～ 46 回生

38 回生

47 ～ 73 回生

40 ～ 41 回生

東京鰐陵会の最近の取組みの紹介

東京鰐陵会前会長　木村貴則（33回生）

平成29年11月12日開催の第26回東京鰐陵会（鰐陵同窓会東京支部）総会は、参加者143名を得て無事に終了しました。この総会で役員改選が行われ、2期4年間続けた会長を37回生佐藤悠氏に引継ぎました。今後は監事として活動を側面から支援して参ります。会長職の前5年間の事務局長を加えると9年間に亘り執行部として携わった会の運営について総括しますので参考になれば幸いです。

⑴会の運営を総会収入で賄う事

事務局長を引継いだ頃は、2年毎の総会開催であり、総会で得た運営資金は2年目になると底を衝き役員の持出しや次期総会までの借り受けで凌ぐ場合がありました。経費削減を徹底し、他校の同窓会参加も極力減らしましたが追い付きません。そこで総会収入で賄うためには、会則を改定して2年毎開催を毎年開催に改めました。その上での増収策は、①総会出席者の会費の内千円を運営資金に当てることを総会案内状に明記したこと、②会報紙『東京鰐陵』を総会毎に発行し総会の様子を写真入で会員に伝え連携のツールにすること。合わせて総会欠席者には通信費＋運営資金援助として一口千円以上の援助を要請すること、その代わり会員で活動を支える事を強調して広告収入を求めないことでした。この資金援助は前回総会では162名から492,500円を得ました。目下の大きな活動支援として運営を支えています。

⑵広報紙『東京鰐陵』の紙面の充実

9月に総会開催の案内状を会員に送りますが、この時前回総会の模様を記載した『東京鰐陵』を同封することにして2月から編集作業を始め8月に完成させています。編集委員は、三宅哲参与、杉山明理事、木村貴則会長の専任3名で行いました。心掛けたことは、①総会欠席者にも総会の様子を写真入りで伝え総会配付資料の記事を全て掲載すること、②欠席者から寄せられた近況報告をそのまま掲載すること、③総会出席者名簿と運営資金提供者名簿を回生別に掲載すること、④会長や来賓の挨拶は、当日会場で収録したままをダビングして載せること、等で臨場感を出すことに努めました。

⑶総会のプログラムの充実を図ること

総会は第1部議事審議、第2部イベント、第3部懇親会

の3部構成として、全体で3時間を確保する様に会場と交渉した。食事の形式は、高齢者の参加が多いことに配慮して、着席の卓盛り形式とした。そして同期生は同じテーブルに座る様に着席表を作成した。

第2部のイベントでは、会員の活躍を紹介することとした。これまでに心臓外科医、写真家、トランペット奏者、ジャズボーカリスト、作曲家とテノール歌手等を紹介している。3時間の内前半1時間で審議事項やイベントを終え、懇親会は2時間を確保した。懇親会の中にもイベントを盛り込んだ。

ご来賓・役員のテーブル

初めの頃は①在学中の部活動の様子を紹介するために、同じ部活の参加者に登壇して貰い当時の様子を語って貰った。色々なエピソードが聞けて面白かった。水泳部が山形市での大会の帰りに蔵王に登り、お釜で泳いだ話も聞けた。②部活紹介が一巡したので、喜寿、米寿の参加会員に登壇して貰い、会長から記念品を差し上げ代表に挨拶をして貰っている。4年間続けているが好評なので継続としたい。③懇親会2時間のうち1時間を『歓談タイム』として、舞台での催しを止めお喋りに徹して貰うことにした。同期生、部活の仲間、卒業中学の先輩後輩の歓談の輪が出来ます。

⑷同期会兼同窓会の開催とすること

同期会と同窓会をリンクさせて開催することを提案している。そのため予め開催日を11月第2日曜日とし、開催場所は当面の間、縁のある東海大学校友会館と固定した。総会に合わせて同期生が年1回集う様にすれば、召集の手間を掛けずに集まれるので、賛同する同期生が増えて参加者増加に寄与している。

⑸若手の参加者の獲得が課題である

今年の参加者は19回生から73回生までであるが、主力は20、30、40回生台で50回生を超えると数人と少なくなる。若い人を獲得しないと永続的発展は望めない。若い人を獲得するには、彼等彼女等の住所を知らなければ案内状も出せない。そこで取り組んでいるのは、①石高の卒業式前日の同窓会入会式の際に、『東京鰐陵会への入会のお誘い』と会報紙『東京鰐陵』を全員に配付し、関東地区に居を構えて落ち着いたら入会することを勧めている。②今年の本部総会の主管は63回生ですが、総会後の二次会に顔を出して同じ勧誘を行いました。目下のところ成果はゼロです。この活動は継続して若手の入会を促します。

⑹HPを活用して会の活動を紹介

29回生の今野勝幸さんが、2008年（平成20年）5月7日に東京鰐陵会のホームページ（HP）を立ち上げてくれました。当時既に70歳を過ぎていましたが、独力で勉強され東京鰐陵会に相応しい形式のHPを工夫してくれまして、会の活動の発足当時からの歩みや広報紙『東京鰐陵』も第1号から見ることが出来ます。東日本大震災の時には、掲示板として行方不明者の捜索にも一役買いました。東京鰐陵会の会員が企画したり参加する催しを紹介して参加を促しています。『東京鰐陵会』で検索しますと、Yahooや Googleのトップ頁に表示されますからご利用下さい。

⑺事務所の移転をお願いしました。

1988年（昭和63年）以来事務所をお願いしておりました27回生・三宅哲氏の三宅デザインルームが中央区日本橋蛎殻町の事務所を閉じることになり、代わりに事務所を置いてくれる方を捜しておりました。中央区の会議室を利用しているので、中央区に事務所を持つ方を当たっていたが該当者が無く、都内在住者で出来れば会計担当者の所に置きたいと枠を広げてお願いし、2013年（平成25年）11月10日の総会の承認を得て、荒川区町屋の早川誠氏（38回生）宅に移して現在に至っております。早川さんは、現在御殿場に単身赴任中の中で、大変お世話になっています。

⑻同窓会の永続的発展のために

同窓会活動も時代と共に変わるでしょう。

応援旗を振り回して応援歌を高唱する場面も無くなるかもしれない。寂しいことですが、男女共学の女子が気楽に参加できる仕組みを考えねばならないだろう。女子の参加者が多くなると、華やかな会場と豪華食事と催しの内容（イベント）に興味が有るかもしれない。女子の役員を交えて一緒に楽しい同期会兼同窓会とすることが永続させるポイントと思われます。

鰐陵バレーボールクラブ親睦会in東京

今野勝幸（29回生）

平成29年5月27日「第1回鰐陵バレーボールクラブ親睦会in東京」を東京ガーデンパレス（御茶ノ水）にて開催。

鰐陵バレーボール部は、創設69年の歴史を数えます。鰐陵21回生（大沢・佐々木先輩）に始まり今年で69年の歴史を誇り、その伝統は今の現役生まで引き継がれ、今日に至っております。

石巻高校（鰐陵）バレーボールクラブとしての戦績は、過去全国大会に2度出場しており、第1回目は昭和31年の全国高校総合大会（宮城県開催）に29・30回生。第2回目は昭和35年（熊本開催）に33・34回生チームが全国大会での活躍を成し遂げて着ました。また昭和25年頃から現役生とOBとの交流を図る目的で始めた正月の親睦元旦バレーが60数年継続して今日まで受け継がれております。

関東在住者6名、石巻からの9名が参加した

鰐陵バレーボールクラブは石巻においては毎年総会と親睦会を開催しており、現役生の援助、OBチームを結成し地域大会への参加など多々活躍しております。

今回の、「鰐陵バレーボールクラブin東京」は関東在住者との交流を目的に初めて東京での開催を試みました。

関東在住者（6名）石巻出席者（9名）計15名が出席。色川健一氏の司会進行で和やかな雰囲気の中で、昔話に華を咲かせ先輩・後輩の垣根を越えた懐かしく楽しい一時を過ごす会となりました。

会は物故者への黙祷にはじまり、経過報告、発起人の岩渕氏挨拶、鰐陵クラブ会長鈴木義孝氏の石巻現況報告、長老の佐藤允俊先輩による乾杯、懇談、自己紹介等々と近況報告と昔話に華を咲かせ大いに盛り上りました。参加者各自の近況報告。途中今年2月に逝去された木村健一氏（38回生）の奥様が会場に来てくださり、生前本人も「ぜひ出席したいと楽しみにしていた」と話を頂きました。

歓談はあっと云う間に時間が経ち、出席者全員クラブの「絆」を確かめ合い、最後に「幻の門」「鰐陵歌」「校歌」と声高らかに歌い盛会裏に終了、各自なごり惜しみながら次回の再会を約束し散会しました。

※東京出席者：佐藤允俊（24回生）今野勝幸（29回生）、青木康一（38回生）、佐々木充朗（41回生）、濱畑文晧（78回生）、大槻健太郎（83回生）

※石巻出席者：関口俊介（33回生）、桂田文隆（33回生）、杉山博孝（38回生）、岩渕格（38回生）、色川健一（39回生）、佐藤憲一（40回生）、高山伊知郎（42回生）、鈴木美孝（43回生）、田母神信幸（57回生）

石巻世話人　色川憲一
東京世話人　佐々木充朗
今野勝幸（手記）

★クローズアップ★いま躍動する"若手"

鰐陵会、私の「心の古里」

佐々木克仁（60回生）

卒業以来、同窓会へ参加させて頂く機会がなかなか持てなかったが、ちょうど数年前、我々60回生は石巻での鰐陵同窓会の幹事を任され、それを機に初めて同窓会へ参加させて頂いた。受付で先輩方を出迎え、応援歌や「幻の門」、など思い出の歌を大合唱。今では男女共学となり別の良さがあるのだろう。しかし、男子校時代の「何とも言えぬ男子校特有の男気溢れる、古き良き雰囲気」とでもいうのか、そんな熱き青春時代を石巻高校で送った私としては、学生の時さながら、血気盛んなあの頃の自分が懐かしさと嬉しさを伴って瞬時に体を駆け巡ったのである。

同窓会では特別イベントとして現役の鰐陵生吹奏楽部による演奏が行われ、なんと私はそこで指揮をさせて頂くという僥倖に恵まれた。おそらく同級生の誰かが「同級生の佐々木が指揮者をやっているから、ちょうどいい。指揮してもらおう」と言ってくれたのに違いなかった。卒業以来なかなか会う機会を持てずにいた同級生が私の事をどこかで耳にし、心に留めていてくれた。その事が本当に温かく、何よりありがたかった。

鰐陵の大先輩から現役の高校生までの長い歴史の重みを背に、させていただいた指揮は、一振り一振りに想いが溢れる心持ちがした。その日を機に今まで無かった同級生達との交流が卒業以来、再開したのである。

そんな矢先、鰐陵の先輩であることはもとより、音楽でも尊敬すべき大先輩である和泉耕二先生（38回生）よりご紹介頂き、昨年初めて東京鰐陵会に参加する機会を得た。正直、初対面のはずの鰐陵の皆様。話が弾まなかったら…と多少の不安もあったのだが、「同じ鰐陵というだけで、こんなにも初めから気心が通じ合うのは何故なのか？」そんな嬉しい疑問（？）を抱きながら、参加者名簿を電車の中で読み返し、読み返し、お一人お一人のお顔を思い出しながら帰路に就いたのである。

ところで今年の3月、和光市で震災チャリティーコンサートが行われ、そこで指揮をさせて頂く事になっていた。

和光市の震災の為の実行委員会によるコンサートで、和光市の皆さんが震災追悼演奏会に演奏ボランティアとして来石してくださった事に始まる。発足より私もずっと関わっている、和光と石巻の架け橋的な企画なのである。

石巻がクローズアップされる企画。東京鰐陵会の皆さんにも聴いて頂けないかと考え、会の皆様にお声掛けさせて頂いた。お忙しい中、無理を承知でのお誘いであったが、ありがたいことに皆様連れ立って会場に足を運んで下さったのである。先輩方の温かいお気持ちに感謝である。コンサートの出演者は和光市だけでなく、広く首都圏全体から大勢集まった。また石巻のオーケストラと合唱団が招待演奏者として招かれ約250名の出演者の中で行われた。また、2階席には石巻関係者の為のエリアが用意されたほどで、客席もふるさと石巻の関係者が大勢だった。

コンサートの内容はというと、まずは前記の和泉耕二先生作曲、石田邦彦先生（35回生）作詞の『石巻・わがふる里』の演奏。この『石巻・わがふる里』昨年の東京鰐陵会でも歌われ、大いに評判だった歌で、石巻への想いがこもった大変な名曲なのである。

歌詞とメロディーが絶妙にマッチしているからなのであろう。歌っていると日和山、北上川の川辺、川開きの花火、恐らくは稲井辺りなのであろうか豊かな田園風景など、馴染みの風景が美しいメロディーと共に目に浮かんで胸が熱くなる。

さて、本番の演奏はちょっと趣向を凝らした。私が1番を指揮させて頂いた後、サプライズで客席から颯爽と登壇してきた和泉先生へ指揮をバトンタッチし2番3番を演奏するというもの。そして、大合唱が高らかに石巻への賛美を歌い終えたところで、客席から作詞の石田先生にご登壇いただき、和泉先生、石田先生、私の鰐陵三者で手をつなぎ客席に向かって挨拶、また演奏者の熱演を讃えた。

次の曲目は石巻市制施行40周年記念作品として作曲されたカンタータ『大いなる故郷石巻』という1時間以上にもおよぶ大曲の演奏だった。仙台藩以来から現代までの石巻の歴史を描いた壮大な作品で、市制施行40周年記念で演奏されて以来、10年の節目を迎える度に歌われ続けている大曲である。

若手の東京鰐陵会員（左から）成家新一（62回生）、佐藤大和（72回生）、高砂道隆（73回生）、渡邊公威（64回生）、佐々木克仁（60回生）の各氏

この名曲、実は石巻以外ではこれまで演奏された事がなく、「門外不出」の作品であった。それを石巻への強い想いを持った和光市の実行委員会が、関東での演奏実現まで漕ぎつけたのである。実行委員会の大変な努力と熱意には本当に頭が下がる。

私は大学入学と同時に上京し、そのまま東京に住んでいる。よく東京近郊出身の方に「古里がある人っていいよな」と言われる事がある。言われるまではそんな事は気にも留めなかったが、確かに古里があるというのは嬉しく同時に温かい気持ちになるものである。ありがたい事に私は石巻の皆さんとも現地で一緒にコンサートをさせて頂く機会も多く、石巻の方々との繋がりも深い。

私は古里が好きなだけに、初対面の方でも同郷というだけで、すぐに共有感を持ってしまう。ましてや、それが鰐陵となったら、想いは一層であり、特別な嬉しさが込み上げてくる。鰐陵の中でそんな想いを持つのは私ばかりではないのではないか。石巻から遠く離れたこの地に東京鰐陵会という「心の古里」を得る事が出来た。何とも嬉しい限りである。感謝したい。

★クローズアップ★いま躍動する〝若手〟

障害児福祉の法人を設立し10周年を迎えて

成家新一（62回生）

私は横浜市で「株式会社サティスファクション」という法人を立ち上げ、知的障害児者を支援する事業を行っている。元々は医療器械メーカーに勤務するサラリーマンであったが、10年勤めた頃に親交のあった医師からの誘いで医療法人に参加した。この医療法人が医療の他に障害児福祉の事業も行っており、これが障害福祉との出会いであり、5年弱の在職中に施設長、理事の職にも就かせていただき障害福祉について学んだ。

この頃は、現在の障害者総合支援法の前身である支援費制度（平成18年4月から平成25年3月までは障害者自立支援法）が施行されたばかりで、まだまだ障害福祉サービスの事業所も少なく問題点も多く、微力ながら地域の障害福祉にお役立ちできないかと法人設立の運びとなった。その後、知的障害を持つこどもたちの余暇活動を支援する「障害児余暇支援事業所くらぶ」を開設し、さらに、こどもたちの高校卒業後の進路が不足しているとの地域の声をかなえるべく、平成25年4月に18歳以上の知的障害者を対象とした「日中活動事業所 優和」を開設した。高齢者福祉でいうところのデイサービスとお考えいただきたい。

また、デフレ就職難だった時代、平成22年から平成25年までは神奈川県より「かながわ介護ひとづくり事業」の委託を受け、4年間で計11名の未就職卒業生を雇用・教育し神奈川県の緊急雇用対策に協力させていただいた。

「増え続ける知的障害児者と働き手の不足」が課題である。横浜市の療育手帳交付数は増え続けており、平成8年度9，868名、平成18年度16，661名、平成28年度27，958名（横浜市統計ポータルサイトより）と、この20年でおよそ2・8倍となっている。一方、横浜市のこの期間の人口総数は、平成8年3，308，903名、平成28年3，724，695名（横浜市統計ポータルサイト）でおよそ12％の増加であった。

また、少子高齢化が騒がれている昨今だが、横浜市も例にもれず若年層の比率は少ない。だが、こどもの数が減少しているにもかかわらず市内の特別支援学校等の生徒数は高止まりで、毎年700名から1，000名ほどが高等部を卒業している。ちなみに現在の小学6年生の代が1，017名で過去最高である。（平成28年度進路対策研究会進路調査結果より）

次に働き手だが、デフレ就職難の時代は新卒でも経験者採用でも、必要人数を確保することができた。むしろ求職者が押し寄せていたが、ここ4、5年でその様相はがらりと変わった。元々3K、4Kと呼ばれる仕事の代表格であるため、他業界の採用枠が回復してくると人材も流出し新規獲得も苦しくなる。少子高齢化による働き手の不足はどの業界も一緒で、業種によってはITによる効率化、機械化やAIの導入が進んでいるが、介護に関しては一部で移動のサポートをする機械やコミュニケーションロボットの導入は見られているが、介護労働の基本は人間同士のコミュニケーションにあり機械化が難しい。

外国人労働者に関しても一時、東南アジア諸国との二国間経済連携協定（EPA）による介護士の受け入れと、その後の外国人実習制度に介護職が追加となった話題が記憶に新しいところではあるが問題も多いとの結果報告が出ている。いずれにせよ2025年度には、介護人材が38万人不足（厚生労働省需給推計）するためパラダイムシフトが必要なのは確かだが、まだ道半ばといった現状だ。

最後に、おかげさまで設立した法人は10周年を迎えることが出来ました。社名「サティスファクション」は日本語訳すると「満足」です。利用者さんとそのご家族、働くスタッフ、行政や学校、この会社に関わる全ての人に満足していただける集団を作りたいとの思いでつけた社名です。少子高齢化働き手の減少により前途多難な見通しですが、「サティスファクション」この思いを実現できるよう進運を開拓していきたいと思います。

連載2

思い出の東京鰐陵会

～偉かった諸先輩のことなど～

三宅 哲（27回生）

「生江義男（なまえ・よしお）」という先輩をご存知だろうか？

山口瞳の小説『けっぱり先生』（新潮社）のモデルにもなった教育界の名物先生で、鰐陵7回生である。

生江先輩は、東京高等師範学校（のちの東京教育大学→筑波大学）を卒業後、東京文理科大学史学科に進んだが病気で退学、石巻に戻って療養していたが、請（こ）われて母校の旧制石巻中学校で教鞭をとることになった。あだ名は「ゲホ」。由来はわからない。結構厳しい先生だった、とある教え子の先輩から聞いたことがある。

あだ名について、昭和16年1年生で地理を教わり、しょっちゅう叱られていたという19回生の村井昭郎先輩がこんな推察を話してくれた。「頭の大きいことを『外法頭（げほうあたま）』という事からゲホとあだ名されたのではないか？後年、先生は色紙などに『芸峰（げいほう）』と銘を書いていた。先生一流のユーモアかな、と思っていた」とのこと。

生江先生は戦後、東京の桐朋女子高等学校（学校法人桐朋学園）へ転職することになったが、これには東京高等師範学校から強い要請があったためらしい。

桐朋学園の前身は山水学園といい、陸海軍将校の子女教育の学校だった。終戦に伴い解散、再出発するにあたって生江先生に再建の協力を求めた、ということのようだ。当初は生徒や教師の確保に大変な苦労があったという。開校時の生徒数は百人に満たなかった。現在の人気振りからは想像もできない状態だ。足りない教師について生江先生は鰐陵関係から優秀な人材をスカウトした。

旧制石巻中学で教師をしていた春日順治先生、石母田節（5回生）、佐藤孝己（14回生）、亀山慶一（16回生・和歌森太郎直系の民俗学者）、千葉哭（ひろし17回生・中国史、のちの校長・理事長）、高橋金雄（17回生・事務長として学園を支えた）、雫石重一郎（19回生）といった方々だ。

学園は京王線仙川駅近くに建てられたが、グランドは荒地のままで、教え子の後藤芳蔵、白鳥実（20回生）、菅野七三郎、萬代茂、星澤欣二（21回生）といった人たちが小石を拾い雑草を刈って整地した。作業が終わると学校裏の生江先生宅に寄り夫人の手料理をご馳走になるのが楽しみだったそうだ。この先輩たちはその後の東京鰐陵会の維持発展に尽力してくださった方々だ。

桐朋学園は開校後、入試のペーパーテストや通信簿をなくすなど独特の教育方針で教育界や世間の注目を集めて順調に発展していた。生江先生は、帰国子女の受け入れや子供のための音楽教室など、引き受け手のない案件でも引き受けて育成に力を注いだ。特に子供のための音楽教室は、後に小澤征爾をはじめ世界的に活躍する音楽家を輩出する礎となった。

扇谷正造さん（3回生・『週刊朝日』編集長、ジャーナリスト）は生江先生のよきアドバイザーだったようで、そうした付き合いの中で関東地区在住鰐陵生の組織化という働きかけを生江先生にしたようだ。

昭和33年、34年と2度も母校が火災に遭う事故がおき、鰐陵同窓会からは校舎再建のための経済的な支援協力要請もあり、組織化が急がれることとなった。

そこで同窓会名簿から関東在住者を抜き出し、各回生の中から勝手に代表者を指名して同期生の取り纏めを依頼した。

氏名・住所・電話・職業を一覧表にして返送してもらったのだが、返答なしの回生も

短信

総会欠席者からの近況報告

■14回生～22回生

佐藤孝己（14回生）
伏見和郎君、入院中とのことですが、どうぞお大事に。当方は足腰が悪く、歩けません。

加地　弘（18回生）
毎日元気です。

村井昭郎（20回生）
木村会長様、出席したいと思っていましたが、天候の激変もあり、やっぱり老体には自信をもてなくて欠席します。返事が遅れてスミマセン。御盛会を、お祈りしますとともに、貴兄の長年のご苦労に感謝申し上げます。女川会で、またお会いしたいです。

織野善夫（21回生）
盛会を祈る。

加藤太一郎（21回生）
高齢のため出席致しかねます。

山田　薫（21回生）
お知らせ有難うございます。父・薫は老人モームに入所し、元気に過ごしております。

川村長一（22回生）
年齢の所為とは申しませんが、最近、朝の床ばなれが辛くなり、快適な目覚めがほとんどなく、おまけに外反母趾の影響で歩行が億劫になり、特に階段の昇り降りは禁物ですから、杖は手放せません。眞に情けない次第で、ほとんど家に閉じ籠っています。

木村隆吉（22回生）
歩行の速度も落ち遠出は困難となり、ただ、平穏無事を願って日々を送る状態です。皆さまに宜しくお伝え下さい。

吉田正文（22回生）
幾つかの病のフォローアップしながら仕事、ゴルフ、酒盛りを続けています。所用のため欠席します。御盛会を祈念しています。

■23回生～24回生

荒川竹雄（23回生）
年相応の老いは避け難く、好調というわけにはいきませんが、特記すべき不具合もなく過ごしております。東京鰐陵（15号）盛況のご様子、うれしく、なつかしく拝見しました。有難うございました。益々のご盛会を祈念します。

亀山兵吉（23回生）
体力はいささか心もとないが、気力はいつも充実しているぞ。諸君も頑張れ!!

田代善郎（23回生）
御会の発展と各位のご健勝をお祈りいたしております。

石川正雄（24回生）
いつも会報のご送付を賜りありがとう。この数年前から病名の付かない病気に悩まされていますが、曾孫の結婚式くらいまでは生きたいという夢と希望を持っていますので気力は頗る旺盛です。諸兄のご健康を祈っております。

古座明朗（24回生）
次回は体調をみて出席するよう考えています。

崎野昇三（24回生）
体調不良のため遠出できず欠席させて頂きます。ご盛会をお祈り致します。

玉河信也（24回生）
それなりに元気です。30年4月までの自動車の運転免許（ゴールド）をそろそろ返上しようかと迷っていますが、米寿の先輩がまだ運転していると最近聞き（日本郵船OB会で）迷いが大きくなりました。盛会をお祈り致します。

手塚康二（24回生）
今年で84歳。年齢相応に身体は故障だらけ。学生、会社員時代の親友も他界する者も多く、そろそろ自分も終活の準備をせねばと思う毎日です。

■25回生～27回生

青沼義信（25回生）
第26回総会開催おめでとうございます。事務局、当番幹事の皆さんお疲れ様でした。今年はなんとか出席したかったのですが、依然として体調が安定せず残念ながら今年も欠席することにしました。お許しください。総会の盛会と同窓生皆さんのご健勝をお祈りします。

坂本武久（25回生）
体調依然として回復せず、残念ながら出席できません。会員各位のご健勝を祈念し、会の益々の盛会をお祈り致します。

津田健三（25回生）
現在は全て会社を長男に譲り、取締役会長として毎日会社に行っています。83歳になっても尚、やることがあると云うことは健康にも良いことですね。生憎当日はロータリーの地区大会があり、残念ながら出席できかねます。皆さんによろしく。

浅野貞夫（26回生）
旧職の会社の担当部門のOB会長をしておりましたので、開催日が重複し、欠席続きで申し訳ありません。その会も今年で終了します。来年からは出席します。（独りで歩けるようならば…）

芳賀玄八男（26回生）
ワンカップ（一杯だけ…笑）片手に、パソコン相手に囲碁で脳を鍛えています。毎年送られてくる東京鰐陵に掲載されている、懐かしい顔写真など楽しく拝見しています。

日野和雄（26回生）
「腹部血管造影及び肝動脈化学塞栓療法」の治療を受け、退院後の静養が間がないことから失礼します。鰐陵健児諸兄のご健勝をご祈念申し上げます。

庄司貞義（27回生）
最近体調不良で外出などは、かなり控え目にして暮らしています。徐々に回復しつつありますので、間もなくもとに戻るでしょう。いつも連絡頂き感謝致しております。皆様のご健康を御祈りします。

菅井武彦（27回生）
日程の調整つかず今回は欠席します。皆様によろしく。

千葉美幸（27回生）
私は高齢のため、退会させて頂きます。会の益々のご発展を祈念申し上げます。

徳江　明（27回生）
行政書士業務（相続・遺言）の打合のため欠席します。散歩・体操を通じて体力維持に努めています。

新田　敏（27回生）
活性化のため色々努力されているようで敬意を表します。ご盛会を祈ります。

米本邦雄（27回生）
腰を痛めリハビリ中。遠出できません。

■28回生～29回生

小野信夫（28回生）
幹事の皆様には、大変お世話になっています。夫・信夫も加齢とともに体調不良となり、社会参加が無理な状態となりました。皆様のご健康を、心よりお祈り申し上げます。

櫻井忠義（28回生）
近隣の写真愛好家と自然や草花の撮影を楽しんで講評会や展覧会を開いています。

浅沼昭夫（29回生）
外の空気を吸うようにしています。月一回の麻雀大会参加、毎週一回の油絵サークルに参加です。

安倍正剛（29回生）
毎回同期会に参加しておりますので、不用ではないかと察するが、相変らず心身健康で貧実剛健をよどみなく継続しております。5年前弟（弘明50回生）が死去して以来、東京鰐陵が縁遠くなっております。残念。

■30回生～31回生

亀井勝雄（30回生）
日程調整がつかず残念ですが、今回は欠席になり申し訳ありません。なんとか毎日元気にやっております。

佐々木務（30回生）
元気にボランティアに励んでおります。盛会を祈っております。

橋本照嵩（30回生）
御盛会を祈念申し上げます。海外出張のため残念ですが失礼申し上げます。

畠山　尚（30回生）
八十路を目指し…心して頑張ります。都合により今回は欠席とさせていただきます。ご盛会を祈念いたします。

半澤哲志（30回生）
7月17日～19日、2泊3日　東松島、石巻、女川、大船渡の復興視察の旅を企画し、30名のバス旅行を行いました。震災以来毎年訪れていますので、7回目を数える様になりました。復興の姿が見える様になり、希望が現実に変わりはじめ、うれしく思います。福島へ

平成元年、第9回東京鰐陵会総会で17回生に囲まれた生江先生
（右から3人目。『鰐陵』57号から転載）

あり名簿作りは難儀したが、なんとか形にすることができた。何より各期の代表者の連絡先を把握することができたことは、その後の会の運営のことを考えると収穫であった。

この名簿作りについてちょっと自慢させてもらうと、27回生の名簿は、入学時の顔写真と現在（当時）の顔写真を対比して並べ、質問形式で現況を書いてもらう、というユニークなもので、当然？　先輩たちの注目を集めた。これがきっかけで私は東京鰐陵会という〝深み〟に引き込まれる第一歩になってしまったのだ（関話休題）。

さて、東京鰐陵会の組織作りは、生江先生を中心に諸先輩の意見を聞きながら行われたと思うが、詳しい経緯は知らない。ただ「鰐陵」というプライドを保ちながら、口うるさい？　諸先輩方から文句の出ないような人選を心がけただろうということは想像できる。スタート時の人事を記しておく。

会長　富澤　豁（ひろし　1回生・慶応大学名誉教授）
副会長　山田　明（2回生・ベントン）
同　扇谷正造（3回生・ジャーナリスト）
事務局長　生江義男（7回生・桐朋学園校長）
会計担当　高橋金雄（17回生・桐朋学園事務長）
事務局員　後藤芳蔵（20回生・会社経営）
同　白鳥　実（20回生・三協設備工業）
同　豊島俊逸（20回生・西武百貨店）
同　菅野七三郎（21回生・書店経営）
同　星澤欣二（21回生・電力研究所）
同　萬代　茂（21回生・自営）

＊カッコ内の職名は当時

事務局は、扇谷先輩の思惑どおり桐朋学園内に置くことになったが、実務処理のほとんどは高橋金雄さんが行っていた。金雄先輩とはお亡くなりになるまで親しくさせていただいたが、元々陸軍主計局出身（といえば当時のエリート）で会計事務のプロである。事務局が桐朋から全日本テレビサービス㈱（高橋良社長15回生、第3代東京鰐陵会会長、元NHK専務理事、技師長）に移ってからも長く鰐陵会の帳簿を見ていただいた。書式は複式帳簿でなんども教えてもらうのだが、さっぱり理解できなかった。のちに事務局長を務めた吉田悦雄さん（22回生）は、自称数字がダメな方だったから、金雄さんにずいぶん絞られ悲鳴をあげていたのを懐かしく思い出す。任意の友好の会だからこそ金銭の出入りはきちんとしておくべきだ、というのが金雄先輩の考え方だった。

第1回の東京鰐陵会開催に向けて、桐朋学園の教室を借りて何百人もの宛名を手分けしてすべて手書きで書いた。鰐陵出身の先生方は当然のように手伝って下さったが、どういうわけか鰐陵と関係のない桐朋の先生方も手伝ってくれた。生江校長の影響がいかに大きかったかとも言えるが、生江先生のお人柄もあっただろうと思う。何事も受け入れる度量の大きさが魅力の方だった。

作業が終わると仙川駅近くの居酒屋で「お疲れさん会」をやるわけだが、おいしいビールやお寿司を食べながら先輩たちの何気ない〝金言〟が聞ける楽しみも待っていた。それに我々ペイペイの負担は少なく、ほとんどは生江さんの懐から出ていたようだ。鰐陵事務局の諸経費もご自身の原稿料とか講演料で補填されることが多々あったようだ。

これは初代会長の富澤さんや生江さんが「若い鰐陵生に負担をかけてはならない」という強い気持ちをお持ちだったためだろうと考えられる。ありがたい配慮ではあった。

生江先生は平成3年に亡くなられたが、告別式で小澤征爾氏が桐朋の音大生とバッハの曲を演奏、偉大な教育者であった先生への感謝に溢れた葬送の曲のように感じられた。

東京鰐陵

Tokyo Gakuryo

の支援も引き続き行っています。皆さまのご活躍を祈念申し上げます。

松田勝治（30回生）
当日は日本大学水泳部、創部90周年記念式典が開催されます。桜泳会の役員をしている関係で、出席できません。よろしくお願いします。

渡辺　武（30回生）
残念ですが欠席致します。皆さま方によろしくお願いします。

赤間紘一（31回生）
（淡い思い出）今更、なにげなく図書館で眺めていた「聖観音立像」、天才彫刻家・高橋英吉の作だったのですね！

阿部　行（31回生）
体調の回復に向けて週回、リハビリテーションセンターに送迎バスで通っています。東京鰐陵会も会長をはじめとする関係諸氏の努力により会報を通して活動状況が見えるようになり、感謝申し上げます。

阿部　弘（31回生）
会事務局の皆様、いつもご苦労様でした。また、本年31回生呼びかけ人、3名の皆様、ありがとうございました。残念ながら今年も出席できず心苦しく思っています。会員皆様のご健勝を祈っています。

木村照夫（31回生）
相変わらず同期の新聞部・「鰐陵」の小杉、柴木、熊谷、佐々木（秀）君等と集まって騒いでいます。また1年F組の会「KIKS」の伊藤（克）、木村（重）、佐々木（秀）君とも、みんな元気です。いずれのグループも年3～4回、集まっています。

小磯清光（31回生）
ご案内ありがとうございます。エールを送ります。母の看病で欠席。（返信葉書に平成29年夏、長崎慰霊の旅に参加した際、終戦後外地から引き揚げて来た佐世保港を訪問、その時の様子を書いた新聞記事が添付されていた）

櫻井勝夫（31回生）
いつも案内をいただきありがとうございます。元気に生活しています。

佐々木秀一（31回生）
御盛会を祈念いたします。これまでの役人生活と大学生活を昨年終了しましたが、そのストレスからか3つのがん患ってしまいました。偶然60年ぶりに石高同期の木村照夫君と再会でき、その仲間たち（小杉充君、熊谷君、柴木君、伊藤克夫君、木村重紀君など）にも励まされ、再起を期して頑張っています。ふるさとの思い出はあまりにも温かく、懐かしく、この心身を溶かしてくれます。

榛澤　亮（31回生）
現在、腰痛を患い治療中ですので欠席させていただきます。

脇坂菊雄（31回生）
ヨットレースの都合により欠席します。三浦半島でヨットレース（3-4hのクルーザー）をやっています。クラブオーナーとして若いメンバーと共に頑張っています。米国「ペンシルバニアル大学」では、研究員と共にフィラデルフィア近海で、レース航海（2年勤務後）をやりましたが、米国人には負けませんでした。

■32回生～33回生

川名喜久雄（32回生）
そこそこ元気です。1年ほど前より、脚力が衰えてきました。なんとか鍛えないと。

後藤嘉巳（32回生）
体力維持に努めています。

桜井庸正（32回生）
体力の落ち込み著しく、意欲を落ち込む毎日です。

清水義郎（32回生）
健康です。元気です。皆さんとお会いできずに残念です。

舘　克憲（32回生）
健康が優れません。今回も欠席します。32回生のみなさんによろしく。

芳沢勇夫（32回生）
診察券が5枚に増えました。菩提寺が無住寺のため、ボランティアで依頼があると、蘇東坡を書いて7年目になりました。

金子　賛（33回生）
当日は地元行事のため出席できません。皆さんによろしく。地域でのサークル等の活動や高齢者福祉施設のボランティア訪問など多忙な日々を過しています。「すり切れて人生」との考えです。

栗原光男（33回生）
例年春秋の2回開催する旅行の幹事をしており、残念ながら出席できません。おかげ様で年齢相応に常備薬を服用も1000mから1500m泳ぐ日課とともに、週3回の太極拳に励んでおります。毎回の情報、ありがとうございます。

橋浦武夫（33回生）
先日は東京鰐陵会のご案内を頂きまして、懐かしく、嬉しく拝見しました。おかげ様で事故以来、夫はだいぶ元気になりまして、民謡伴奏やボランティア活動をさせて頂いております。末筆ながら木村様、事務局の皆様に感謝申します。

松川　健（33回生）
毎日忙しくしています。

■34回生～36回生

阿部千春（34回生）
現在介護の実施、勉強中です。皆様お元気で!!

片平　孝（34回生）
取材で留守です。

金子　努（34回生）
元気でボランティア活動をしています。

今野勝三（34回生）
毎日健やかに過ごしています。

田中繁男（34回生）
那須の山猿となっています。今から厳しい冬がやってきます。冬支度に忙しい毎日をおくっています。皆様の御健康を祈ります。

横山征也（34回生）
10月9日の謡曲発表会が、銀座に新装なった「観世能楽堂」で開かれます。迫ってきていますが、連日「自主稽古」に余念がありません。頑張ります。

高橋浩夫（35回生）
九州出張のため欠席致します。いつも会報をありがとうございます。

本木　信（35回生）
マイペースで元気に過ごしています。

阿部徳穂（36回生）
会の発展を祈念致します。

■37回生～38回生

阿部直哉（37回生）
残念ながら肺の病が進行し今は24時間酸素吸入している状態です。酸素ボンベを使えば外出も可能ですが、行動が制限されることが多く、欠席とさせて下さい。皆様に会えず残念です。

伊藤孝道（37回生）
佐藤新会長、丹野、境田新副会長、ご就任おめでとうございます。ご苦労様です。ご健闘をお祈り致します。皆様ご健勝で。

岡部博行（37回生）
未だ何の薬も飲まず、元気で過ごしています。近くに住む孫からも解放され旅行、ゴルフ、カラオケ等を楽しんでいます。今年の海外旅行はベトナム、中国、シルクロードと11月の5回目のイタリアの予定です。

木村和史（37回生）
御盛会を祈ります。

白鳥隆幸（37回生）
大学を卒業して、もう少しで半世紀になろうとしていますが、9月に初めて友人に誘われて、学生野球を観に行きました。（神宮球場）学生時代にタイムスリップしました。その日は母校が勝利しました。

山下政志（37回生）
11月中旬下記に（長野県伊那市高遠町藤沢御堂垣外3833―1）引っ越します。当地でアンティークの店を開きます。近くにおいでの折りは、お立ち寄り下さい。皆様の御健康と御活躍をお祈り致しております。

荒川憲一（38回生）
未だ教鞭をとっております。所用があり欠席致しますが、東京鰐陵会の益々のご盛会を祈念しております。

大林正人（38回生）
飯田橋から鶴見に都落ちしましたが、会社は継続しています。最近は政府の入札案件を仕事にしています。妻は、うつ状態がようやく改善した所です。

小山慶孝（38回生）
変形性膝関節症の治療中。加齢に耐えられる身体づくりに励んでおります。盛会と皆様のご健康を祈念しています。

古川伸壱（38回生）
盛会を祈念いたしております。

■39回生～40回生

岩崎宏幸（39回生）
ご連絡ありがとうございます。11月に白内障の手術をします。12日は術後、5日目になります。翌2週にもう一方を予定しています。総会は欠席します。同会の盛会を祈念申し上げます。

熊谷道夫（39回生）
体育中心の生活（スポーツジム・ゴルフ）をしています。

今野雅隆（39回生）
サンデー毎日、2年目です。

佐藤泰助（39回生）
大きな病でなく（小さな病は抱えていますが）、気ままな日常生活と旅を楽しんでいます。石巻には年6～7回帰省し、その度に市内を散策し復興状況を見ていますが、まだまだですね。総会の盛会を祈念致します。お元気で!!

立花静一（39回生）
いつもありがとうございます。

平塚雄治（39回生）
ただ今、営業中です。事業を展開して15期を迎えることができました。偏に、いろいろな方々にお世話になりながら進めて参りました。今しばらく現役続行で進めて参りたいと思っています。一時は、東京鰐陵会の諸先輩の方々にお世話になり「慰労会を含めた飲み会」では諸先輩のお酌専門要員として活躍させて頂きましたが、ひょんなことから、退出してしまいました。それにしても、小生を含め我が39回生の欠席の多いことには申し訳なく思っています。そのうちにと思っております。よろしくお願い致します。

金子重芳（40回生）
石高に入学して50年経過しました。夢中になって勉学に励んだことが懐かし思います。大学の講師や講演をしながら生活をエンジョイしています。東京鰐陵会総会が楽しい会になるよう祈っています。

佐々木典雄（40回生）
趣味の鮎釣。今季は20回出漁、のべ197匹。7月の少雨、8月の大水で、川が落ち着かず鮎が大きくなれず、納得のいかない年でした。これからは海の甘鯛釣り。晴釣雨読の日々です。

佐藤俊夫（40回生）
所用のため欠席します。ご盛会をお祈り致します。

田村　隆（40回生）
何とか生きております。皆様どうぞお元気でお過ごしください。

榛澤修三（40回生）
皆様のご健勝とご盛会を祈念申し上げます。

牧野　孝（40回生）
月に10回程のBOATの練習。アルバイト、読書と忙しくやっています。ご盛会をお祈り致します。

水澤純一（40回生）
幹事の皆様、お疲れ様です。折角のお誘いですが、参加できず誠に申しわけありません。

渡辺総一（40回生）
人生の第2章を生きようと、気持ちをリセットしたところです。実はこの3年ばかり、心身のトラブルを経て得た思いです。今回の会は、11日に「宗教改革としての美術」の講演と12日に故郷に行く用事が重なり、欠席となりますが、盛会をお祈り致します。

■42回生～43回生

伊藤信一（42回生）
この4月から、NHK学園高等学校でお世話になっています。

佐久間克彦（42回生）
50歳位で後進組と交代の予定でしたが…。まだ働いています。

茂泉吉則（42回生）
当日、入学説明会の為欠席させていただきます。盛会を祈念いたします。

村上佳司（42回生）
所要により欠席します。

村田　彰（42回生）
お世話様です。思い出されるのは石高の火事と運動会の棒倒し、冬の長靴をはいたラグビー等など。7月に初孫が（男子）が生まれました。日々、手手なピアノや絵、時々50以上のサッカー。ピアノはヘ音を卜音に直して、弾いています。皆々様のご健康を心より願っています。

佐々木哲雄（43回生）
おふくろが97歳で施設にいます。お見舞いに行くため行けません。皆様によろしくお伝え下さい。

佐藤休三（43回生）
今回は所用ができ、出席できません。昨年は初めての参加で母校の様子を知り、新しい中にも伝統が守られていることを嬉しく思いました。

鈴木祥男（43回生）
先月末に半年間にわたる入院生活から開放されたばかり。通院生活中につき出席できません。

松谷　昇（43回生）
NEC退職後、卓球に夢中になっています。年間50回以上試合しています。11月12日も試合です。調整しましたが、団体戦のため代わりが見つかりませんでした。

若山栄作（43回生）
当日はどうしても仕事が外せず出席できません。ご盛会をお祈り申し上げます。

■44回生～49回生

伊藤裕康（44回）
3年前の2014年に、定年退職しました。現在、雇用継続で富士通研究所R&D戦略本部に特許戦略を担当しています。9月14日～22日に急性心筋梗塞で入院しカテーテル治療をしましたが、そのために体調すぐれず欠席です。

伊藤　隆（46回生）
石巻ラグビー協会より依頼があり各大学と調整した結果、来年5月20日慶應大学VS明治大学のゲームが実現します。

大友理光（46回生）
東京葛飾区で診療所を開業しています。臨床研修医に対する地域医療指導医として活動し、まだまだ引退できません。

佐藤敦彦（47回生）
昨年60歳の定年を迎えましたが、再雇用で仕事を続けています。役員・幹事の方、引き続き宜しくお願いします。

畠山卓弥（47回生）
11月から亀戸畠山にクリニックをオープンします。（透析シャントなど）血管外科と胃腸の内視鏡がメインですが、内科などの一般診療も行います。盛会をお祈り致しております。

荒木泰弘（48回生）
本年は仕事の都合で出席できません。元気にしておりますが、定年を迎え、生活環境の変化がでています。

木村成一（48回生）
当日は、出張の予定が入っておりますので、残念ながら出席出来ません。皆様のご多幸を祈念しております。

笹森幸弘（49回生）
当時は旅行中のため出席できません。次回ゴルフコンペ出席したいです。

■50回生～

千葉真弘（50回生）
元気でやっております。

沼舘拓彰（50回生）
先日、9月23日、南浜町にて植樹祭が盛大に行われたそうです。地元石巻の復興を心から願っています。

大内　浩（52回生）
今年も公務で出席できません。元気にやっています。

亀山光浩（56回生）
転勤により1月から仙台に単身赴任しています。

後藤眞毅（58回生）
金融コンサルティングをしております。

飯坂正弘（59回生）
大槌調査を一旦今年で区切り、次は産業復興・再興へ取り組みます。今年は学会（浜松）のため欠席します。

木村祐介（75回生）
ご案内ありがとうございます。今回はどうしてもはずせない用事と重なり誠に残念ですが欠席させていただきます。相変わらず大田区の方の会社に勤めています。

東京鰐陵会役員名簿 (H30/2/23)

会　長　(37)佐藤　悠
副会長　(37)丹野　静也
〃　(37)境田　憲男
監　事　(33)木村　貴則
〃　(33)堀内　文夫
参　与　(27)三宅　哲
〃　(29)千葉　弘二
〃　(29)木村　莞爾
〃　(34)千葉　保宗

事務局
事務局長　(40)加藤　友成
事務局次長　(40)瀬川　徹
事務局次長(会計担当)　(38)早川　誠
〃　(43)伊藤　純一

理事(21)青山　景一
理事(22)鈴木　善治
理事(25)阿部　剛
理事(25)中里祐二郎
理事(25)武山　勝
理事(26)浅野　貞夫
理事(27)平塚　久義
理事(28)神山　公男
理事(28)成澤　良
理事(29)今井寅三郎
理事(29)岩渕　茂
理事(29)**今野　勝幸**
理事(29)松川　文隆
理事(30)**木村　長人**
理事(30)首藤　光春
理事(30)鈴木　賀夫
理事(30)蜂谷　国彦
理事(31)飯田　勝紀
理事(31)奥山　興悦
理事(32)小野寺義昭
理事(32)手代木　扶
理事(33)熊谷　正成
理事(33)**杉山　明**
理事(34)久保　文征
理事(34)佐藤　洋一
理事(34)**須田　紘一**
理事(34)武山　祐三
理事(35)平塚　征一
理事(36)**阿部　長光**
理事(36)菊地　潔
理事(37)**阿部　義夫**
理事(37)村井　善郎
理事(38)**安住　豊**
理事(38)和泉　耕二
理事(38)**熊谷　勝義**
理事(38)丁子　幹雄
理事(38)**早川　誠**
理事(40)**加藤　友成**
理事(40)**瀬川　徹**
理事(40)斎藤　紀夫
理事(40)阿部　義治
理事(41)高橋　兵一
理事(41)**沼倉　寿男**
理事(41)山形　明夫
理事(42)茂泉　吉則
理事(42)鈴木　卓郎
理事(42)**新田　輝夫**
理事(43)**伊藤　純一**
理事(43)成澤　貴義
理事(43)吉田　祐一
理事(44)半澤　竹彦
理事(48)鈴木　雅芳
理事(49)平塚　仁
理事(52)大内　浩
理事(56)亀山　光浩
理事(56)星野　知倫
理事(58)浅野　剛
理事(58)三枝　健寿
理事(59)佐藤　昌克

(　)内は回生。**太字**は運営委員。

●第26回東京鰐陵会総会　出席者名簿　2017.11.12

回生	氏名	中学	部活
19	菅原　潔	旧制	—
20	安住　重一	旧制	剣道
24	加藤　直人	旧制	音楽
24	佐藤　充俊	旧制	バレー
24	高山　研造	旧制	—
25	阿部　剛	石巻	陸上
25	高橋　清記	大谷地	—
25	武山　勝	石巻	—
25	中里　裕二郎	住吉	—
25	横溝　武春	住吉	—
25	吉野　敏	雄勝	考古学
25	結城　常明	石巻	ヨット
26	菊地　上	野蒜	ラグビー
26	鈴木　春雄	小野	ラグビー
26	三宅　宗議	女川	人文科学
27	阿部　尚之	門脇	—
27	稲葉　實	江島	—
27	上原　藤三	石巻	生物
27	桑島　進	須江	新聞
27	平塚　久義	女川	ラグビー
27	三宅　哲	女川	美術
27	吉田　貢	中津山	
27	渡邊　寛治	石巻	考古学
28	小野寺　康充	矢本	物理
28	神山　公男	飯野川	軟テニス
28	成澤　良	小野	美術
29	今井　寅三郎	須江	考古学
29	岩渕　茂	門脇	考古学
29	木村　荒爾	飯野川	—
29	今野　勝幸	住吉	バレー
29	高橋　伝四郎	月浜	文芸
29	千葉　弘二	女川	柔道
29	半澤　正義	赤井	ラグビー
29	守屋　晃治	門脇	柔道
29	山本　久敬	赤井	—
30	木村　長人	大塩	陸上
30	鈴木　賀夫	涌谷	—
30	首藤　光春	石巻	ラグビー
30	高橋　洋	中津山	—
30	寺澤　正興	涌谷	新聞
30	蜂谷　國彦	住吉	文芸
31	飯田　勝紀	石巻	剣道
31	奥山　興悦	住吉	英語研
31	桑島　馨	須江	重量挙
31	遠山　日出夫	稲井	柔道
32	加藤　憲一	野蒜	—
32	手代木　扶	門脇	—
33	阿部　倫夫	門脇	山岳
33	木村　貴則	住吉	—
33	熊谷　正茂	矢本	卓球
33	今野　秀克	門脇	—
33	杉山　明	門脇	美術
33	堀内　文夫	住吉	陸上
33	山内　明	大谷地	—
34	明石　公夫	中津山	柔道
34	内崎　光劼	大塩	軟野球
34	岡部　勇太	住吉	—
34	佐藤　洋一	門脇	—
34	須田　紘一	女川一	—
34	武山　佑三	住吉	—
34	千葉　保宗	住吉	—
35	谷　光彦	女川一	—
36	阿部　長光	大川	—
36	菊地　潔	湊	軟テニス
36	三浦　亨	宮城野	軟テニス
37	安住　知彦	大原	—
37	阿部　義夫	湊	野球
37	遠藤　順政	渡波	—
37	大森　雅司	住吉	—
37	木田　洋	矢本	合唱
37	今野　和明	大塩	—
37	境田　憲男	湊	ラグビー
37	榊　勝一郎	大川	テニス
37	佐藤　悠	住吉	剣道
37	砂金　正郎	涌谷	—
37	高橋　佐千郎	飯野川	生物
37	丹野　静也	門脇	柔道
37	千葉　徹	飯野川	—
37	星　千秋	蛇田	生物
37	三浦　岩男	矢本二	人文科学
37	村井　善郎	女川一	演劇
38	安住　豊	女川一	化学
38	阿部　盛行	女川一	柔道
38	熊谷　勝義	湊	—
38	熊本　正義	湊	—
38	小池　泰	中津山	ボート
38	館澤　佑	矢本	新聞
38	丁子　幹雄	住吉	音楽
38	早川　誠	門脇	吹奏楽
38	横田　幸治	門脇	新聞
38	渡部　正昭	涌谷	—
40	相澤　貞止	石巻	—
40	阿部　義治	住吉	生物
40	岩崎　久二夫	石巻	人文科学
40	加藤　友成	石巻	吹奏楽
40	木村　道夫	渡波	柔道
40	斎藤　紀夫	門脇	軟テニス
40	佐々木　進	中津山	ラグビー
40	瀬川　徹	門脇	生徒会
40	高橋　憲司	住吉	サッカー
41	伊藤　克彦	石巻	陸上
41	伊藤　博	飯野川	サッカー
41	伊藤　英	前谷地	ボート
41	遠藤　栄松	矢本二	—
41	小関　眞悦	飯野川	卓球
41	櫻井　政文	矢本一	新聞
41	佐々木　清	鹿又	剣道
41	菅原　新也	寒岳	水泳
41	高橋　兵一	飯野川	—
41	沼倉　寿男	女川一	野球
41	藤原　秀悦	石巻	バスケ
41	宮増　秀一	矢本一	—
41	山形　明夫	飯野川	卓球
42	伊藤　輝昭	渡波	—
42	鈴木　卓郎	大川	剣道
42	田口　敏明	住吉	—
42	新田　輝夫	石巻	陸上
43	伊藤　純一	飯野川	軟テニス
43	鈴木　速人	鮎川	軟テニス
43	成澤　貴義	雄勝	—
43	矢野　光雄		
44	伊藤　裕康	門脇	バレー
44	半澤　竹彦	大原	軟テニス
45	大阪　昌道	住吉	陸上
48	植松　正彦	蛇田	重量挙
48	鈴木　雅芳	石巻	野球
48	渡邊　淳	石巻	吹奏楽
53	長谷川　均	湊	ラグビー
56	星野　知倫	石巻	ラグビー
60	佐々木　克仁	大川	—
62	成家　新一	石巻	卓球
73	佐藤　大和	湊	テニス
73	高砂　道隆	渡波	卓球

●御来賓者

石巻高等学校　校長　小松　敦先生
鰐陵同窓会（本部）
会　長　青木　利光様（43回生）
事務局長　中塩　一夫様（49回生）
事務局次長　須田　徹様（48回生）
【出演者】
作曲家　和泉　耕二様（38回生）
オペラ歌手　渡邊　公威様（64回生）
ピアノ　和泉　真弓様
ピアノ　黒木　直子様

平成２９年度　東京鰐陵会　収支報告書

自　平成２８年１０月１日　～　至　平成２９年９月３０日
東京鰐陵会　会長　木村　貴則
会計担当　早川　誠

収入の部

	科目	収入金額（円）	摘要
	前期繰越金	491，653	平成２８年１０月１日現在繰越金
一般収入	協力金	71，093	理事からの寄付金等
	運営資金援助	409，500	会員からの寄付金（１６２名）
	雑収入	8	郵貯、銀行利子
	一般収入　小計	480，601	
総会収入	総会会費	1，350，000	１３６名（１万円１２６名、９千円１０名）
	総会ご祝儀	27，000	来賓ご祝儀
	総会収入　小計	1，377，000	
	収入　合計	2，349，254	

支出の部

	科目	支出金額（円）	摘要
一般支出	会議費	16，804	会議室使用料
	「東京鰐陵」15号発行費	312，012	1,500部印刷（デザイン料、諸経費込み）
	交通費、会費	99，422	鰐陵本部総会旅費・会費、本部会報広告費
	ホームページ維持費	27，432	サーバ利用料
	通信費、雑費	6，568	理事会出欠はがき代、切手代等
	一般支出　小計	462，238	
総会支出	総会宴会費	1，128，224	宴会会場費、飲食代、講演者お車代等
	総会準備費用	213，653	案内状印刷、宛名シール、封筒作成、郵送費等
	総会関係事務・雑費	82，069	来賓・喜寿祝い品、一の厳酒代、通信費等
	総会支出　小計	1，423，946	
	支出　合計	1，886，184	

収支の差額	463，070円	次期への繰越金

現金　25，119円　郵便貯金　400，925円
銀行預金　37，026円

上記監査の結果、正確・適正に処理されていることを認めます。
平成２９年１０月６日
監事　木村　莞爾　印
監事　千葉　弘二　印

2018年の「東京鰐陵会第27回総会」は

11月11日(日) 12時～15時

東海大学校友会館（霞ヶ関ビル35階）お待ちしてま～す!!!

[第2部予告] 講演会

亀山紘石巻市長(33回生)をお迎えし、「世界の復興モデル都市石巻の実現状況の検証」(案)と題してご講演いただきます。東日本大震災から７年経った今「石巻の復興状況と未来に向けた課題」を確認し、支援への想いを新たにできれば幸いです。ご期待下さい!!!

◎東京鰐陵会公式ホームページを活用しよう。
http://www.gakuryou.com/ または「東京鰐陵会」で検索！

第26回総会運営資金援助協力者名簿

29回生　安倍正剛
29回生　浅沼昭夫
28回生　伏見良
28回生　桜井忠義
27回生　船田清孝
27回生　武彦
27回生　菅井貞義
27回生　庄司一郎
27回生　小松栄喜
27回生　及川和雄
26回生　日野賀亥男
26回生　芳賀八男
26回生　崎野隆三
26回生　浅野貞夫
25回生　津田健三
25回生　高橋清記
25回生　坂本武久
25回生　青沼義信
24回生　手塚康二
24回生　玉河信也
24回生　崎野昇三
24回生　古座明郎
24回生　桑田信治
24回生　貝川啓
24回生　石部正雄
24回生　阿野長雄
23回生　亀山浩
23回生　長兵吉
23回生　荒川竹雄
22回生　吉田善文
22回生　鈴木善治
22回生　水村隆吉
22回生　川村長一
21回生　櫻田巌
21回生　荒野善夫
21回生　青井景一
19回生　村井昭一郎
11回生　加藤勝次郎
中島

34回生　菅原国安
34回生　佐々木孝三
34回生　西條修
34回生　金澤努
34回生　金子千洋
34回生　阿部春
33回生　松川健
33回生　橋浦武
33回生　武洋治
33回生　木村日出夫
33回生　武山洋
32回生　金子平
32回生　中里賛
32回生　館成男
32回生　清水克憲
32回生　義郎
32回生　櫻井庸正
32回生　後藤嘉巳
32回生　川名喜久雄
32回生　後藤勝
32回生　勝又守
32回生　角田弘
32回生　阿部雄
32回生　榛澤隆
31回生　佐々木亮
31回生　櫻井勝一夫
31回生　木村照夫
31回生　伊藤克
31回生　阿部弘
31回生　阿部行
31回生　赤間紘一
30回生　渡邊武
30回生　松田勝
30回生　半澤哲志
30回生　畠田尚
30回生　中栄太郎
30回生　高橋勝弥
30回生　窪田敏
30回生　亀井治
29回生　千葉雄
29回生　鈴木慶
29回生　金澤功

41回生　梶谷鉄朗
40回生　渡辺総一
40回生　水澤修三
40回生　榛澤洋一
40回生　中田隆
40回生　高橋国一
40回生　佐々木清光
40回生　金子重芳
40回生　伊勢邦夫
40回生　平塚治
39回生　佐藤泰助
39回生　今野雅隆
39回生　熊谷道
39回生　義郎
39回生　及川舜
39回生　岩崎宏幸
39回生　阿部重雄
39回生　古川伸壱
38回生　船山浩志
38回生　中島智
38回生　佐々木一郎
38回生　小山原
38回生　後藤慶孝
38回生　荒川和男
38回生　浅野憲一
38回生　白鳥正博
37回生　菊地隆幸
37回生　岡部憲治
37回生　遠藤博行
37回生　信雄
37回生　孝道
37回生　阿部直哉
37回生　安藤和則
36回生　相良俊治
36回生　大森秀夫
36回生　梅澤彬
36回生　阿部信
36回生　横山一茂
34回生　菅原征也
34回生　佐々木朗

41回生　片倉純一
41回生　佐々木充
41回生　杉山朗
41回生　伊藤信
42回生　佐久間克彦
42回生　土屋清治
42回生　土屋俊治
43回生　松谷秀夫
43回生　吉田彬
43回生　若山栄
44回生　大崎修
45回生　岡田作
45回生　高崎一
46回生　伊藤昇
46回生　伊藤隆
46回生　佐藤賢一郎
46回生　千葉哲
46回生　畠山隆
47回生　星野淳
47回生　星祐司
47回生　卓之
48回生　荒木太
48回生　加藤弥
48回生　成一博
50回生　沼部彰
50回生　木村拓
52回生　大内浩
52回生　高橋章
52回生　三浦建
52回生　亀山得
56回生　後藤雄
58回生　飯坂光
59回生　眞毅
75回生　木村祐介

寄付者
安住重一　20万円
役員有志　6万円

合計　148名　33万円

訃報

前回総会以降の連絡及び今回の総会開催案内の返信にて、下記会員のご逝去の報をお受けいたしました。

14回生　伏見和郎様
17回生　新田茂夫様
20回生　豊島俊逸様
20回生　松川輝美様
21回生　通次様
22回生　遠藤行雄様
23回生　千葉博義様
23回生　樋口幸夫様
24回生　柴田晴夫様
26回生　三浦朗様
31回生　後藤拓様
37回生　星憲夫様
39回生　佐藤恭二郎様
以上13名

心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

昨年11月12日に開催された第26回総会で新しい執行部が発足しました。16号は新体制のもとで発行された初めての会報紙です。

紙面の編集は、佐藤悠会長（37回生）、三宅哲参与（27回生）、木村貴則監事（33回生）、杉山明理事（33回生）、加藤友成事務局長（40回生）の５人の編集委員が担当しましたが、前号までの委員の全面的な協力もあって作業は順調に進みました。

内容は東京鰐陵会長、同総会会長、石巻高校校長をはじめ、総会欠席者からの連絡葉書に記載されていた近況報告、更には同期生ごとに着席している総会の各テーブルの写真など、主な記事はこれまで通り掲載し、紙面の継承性、継続性を心がけました。総会の様子や雰囲気を感じて頂ければ幸いです。

総会は、毎年11月第２日曜日の正午から霞ヶ関ビル35階の東海大学校友会館で開催します。この日に併せて、年１回の同期会を計画することも可能です。前回の参加者名簿を参考にしてお集りください。

東京鰐陵会は会費を徴収せず、会員有志の寄付で運営しています。総会案内で欠席者には「一口千円以上の運営資金の協力」をお願いしています。この会報紙の発行費用も含めてご支援ご協力をお願い致します。

第26回総会の運営資金のご協力をいただいた方々の名簿は、出席者名簿と共に掲載しました。振込み口座は本紙第１面上段の黒字右側に掲載していますので、よろしくお願い申し上げます。

（編集委員会）